

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	15-035	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Comorbidity and temporal relations of alcohol and cannabis use disorders from youth through adulthood 青年期から成人期のアルコール・大麻乱用への共存症と経時的な関連性		
<b>執筆者</b>		
Susan C.Duncan, Jeff M.Gau, Richard F.Farmer, John R.Seeley, Derek B.Kosty, Peter M.Lewinsohn		
<b>掲載誌</b>		
Drug Alcohol Depend. 2015 Apr 1;149:80-6. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2015.01.025.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール摂取障害、大麻使用障害、共存症、性差、若年者、青少年		25661697
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> アルコールと大麻は先進国で広く使用され、乱用されるものである。小児期から成人期までのアルコール摂取障害(AUD)と大麻使用障害(CUD)との共存症や経時的な順序付けを調べるとはこれらの物質への障害の病因を理解するために重要である。		
<b>方法：</b> 対象者は 816 人(男性 59%、白人 89%)であった。発達を若年期(6 歳から 17 歳)・青少年期(18 歳から 23 歳)・成人期(24 歳から 30 歳)の 3 段階に分け、各段階で AUD であったか否か、CUD であったか否かが測定された。3 段階を通じての AUD と CUD の関連の評価と性差を比較するために構造方程式モデリングが使用された。		
<b>結果：</b> AUD と CUD の同時期における関連性は有意であった。AUD や CUD の前発達段階でのその存在は、次の発達段階でのその障害の存在と有意に関連があった。若年期 AUD から青少年期 CUD と若年期 CUD と青少年期 AUD への交差的関連はともに有意であり、若年期 CUD から成人期 AUD も有意であった。青少年期 AUD から成人期 CUD と青少年期 CUD から成人期 AUD への交差的関連ではともに有意差は見られなかった。男女差は 3 ヶ所で相違がみられたが、大部分が性差なく同様の傾向を示した。		
<b>結論：</b> 若年期から成人期を通して AUD と CUD の共存性は明らかであるが、成人期ではその関連性の強さは小さくなった。若年期と成人期では AUD と CUD の同時期における関連性は似た傾向を示したが、青少年期は同様の傾向ではなかった。同じ物質に対する持続性は成人期がもっとも強かった。		